

令和8年度 第1回土佐和紙総合戦略推進会議本会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和8年8月17日（月）10:00～12:00
（場所：高知県立紙産業技術センター 2階 研修室）
- 2 出席者 出席者名簿のとおり
- 3 議題 ①令和8年度の取り組みの進捗報告
②今後の取り組みに向けての協議

4 議事要旨

議題①令和8年度各基本方針毎の活動報告

（1）基本方針Ⅰ 原料づくりについて

事務局より、資料「令和8年度第1回土佐和紙総合戦略推進会議 本会議資料」を用いて、現在の取り組み状況を説明。

協議内容

- ①KochiSDGs、手漉き和紙職人からの意見
- ②庁内における楮栽培の支援策について
- ③楮生産から販売までの仕組み作りについて
- ④集落活動センターの調査状況

①KochiSDGs、手漉き和紙職人からの意見

【高知県手すき和紙協同組合】大勝委員：

- ・組合員の意見を聞きながら、手すき和紙協同組合という組織として受けるか、手漉き和紙職人個人で受けていくか検討していきたい。

【土佐和紙振興会わ紙。】井上委員：

- ・土佐和紙振興会の方で、KochiSDGsの申請を行うよう検討中。現在は、土佐市の文旦農家から楮の栽培に関する相談や、海外在住の方から後継者育成に関する問い合わせを受けている状況である。今後は、KochiSDGsを取り組んでいくに当たっての仕組み作りについて、共に伴走していただけるとありがたい。また、プロジェクトチーム会についても、ぜひ参加させていただき、情報共有をさせていただきたい。

②庁内における楮栽培の支援策について

【環境農業推進課】田村チーフ（高田委員代理）：

- ・環境農業推進課では、現状、楮栽培についての具体的な支援策を用意できていない状況。林業の特用林関係の方では、対応できる支援策を持っているかもしれない。

【工業振興課】津口委員長：

- ・庁内で確認を行った上で、プロジェクトチーム会に招聘する人を精査していきたいと思う。

③楮生産から販売までの仕組み作りについて

【土佐和紙振興会わ紙。】井上委員：

- ・島根県の石州和紙では、15年前より楮の生産から販路開拓までの一体的な仕組み作りの構築に取り組んでおり、現在ではマニュアルを作成するまでに至ってる。なお、そのマニュアルは提供していただけるとのことなので、また情報が入り次第、共有させていただく。

④集落活動センターの調査状況

【中山間地域対策課】西岡課長補佐（後藤委員代理）：

- ・現在、ヒアリングに回っている状況であり、楮の生産を実施できる可能性がある集落活動センターとして、大豊町・黒潮町・津野町のセンターが挙げられている。中山間地域対策課としては、「実際にどこまで作業しないといけないか」や「取引単価がどれぐらいか」などといったところが不透明なので、「センターとして、生産（増産含む）・加工に協力してもらえそうか」という感触を確かめた程度。今後は、工業振興課と共に集落活動センターへ更なるヒアリングを行うことで、より具体的な対応策を考えていきたい。

（２）基本方針Ⅱ 担い手づくりについて

事務局より、資料「令和８年度第１回土佐和紙総合戦略推進会議 本会議資料」を用いて、現在の取組み状況を説明。

協議内容

- ①後継者育成についての報告
- ②土佐和紙技法の復元について

①後継者育成についての報告

【土佐和紙振興会わ紙。】井上委員：

- ・現在、大型和紙（壁紙やランプシェードなど）に関する問い合わせが多く、需用が高まっている。そのため、今回は大型和紙を漉くことができる職人を育てるよう、研修を計画している。内容については、単に技術を習得することだけを目的とするのではなく、制作した和紙の販路展開まで視野に入れた上で研修を進めていく。

②土佐和紙技法の復元について

【歴史文化財課】：山崎委員

- ・昨年度、「狩山障子紙」について技術研修を実施したものの、紙が上手く広がらない等の問題が発生し、十分な再現まで至らなかった。今年度も、方法を見直したうえで、土佐和紙保存会等と連携しながら狩山障子紙の再現にチャレンジし、技術復元に取り組む予定である。

【紙産業技術センター】：田村委員

- ・現在の製造方法とは異なる昔ながらの製法が用いられており、世代が交代していく中で製法を知らない若い職員が増えている。現在は、過去の文献等から紐解きながら、技術継承ができるよう取り組んでいる状況である。
- ・自分が今年度から会議に参加するため、なぜ「狩山障子紙」を選んだのかを教えていただきたい。

【歴史文化財課】：吉村課長補佐（オブザーバー）

- ・土佐典具帖紙、清帳紙を除いた県指定紙３種類の中で、「狩山障子紙」が一番需用が見込まれたため、技術研修の内容として選んだ。

【高知県手すき和紙協同組合】大勝委員：

- ・技術の復元ができれば、そこからニーズが出てくる可能性はあるが、あまり多くは生産できないかと思う。

（３）基本方針Ⅲ 付加価値づくりについて

事務局より、資料「令和８年度第１回土佐和紙総合戦略推進会議 本会議資料」を用いて、現在の取組み状況を説明。また、土佐和紙の制作者や原料、特徴、用途等を可視化し、商品の信頼性や付加価値向上につなげる「和紙データシート・データカード」の活用について説明を行った。

協議内容

- ①「和紙データシート・データカード」についての意見
- ②高知県手すき和紙協同組合のホームページ更新について

①「和紙データシート・データカード」についての意見

【小津和紙】：木村委員

- ・近年、生成 AI による情報収集が増えている中、和紙についてはインターネット上に正しい情報が少ないため、誤った情報を鵜呑みにしている方が散見される。和紙データシートについては、商品の特徴や製造方法を伝えるだけでなく、消費者へ正確な情報を届ける役割が期待できる。職人からの信頼性の高い情報提供によって、消費者の安心や和紙の価値向上につながると思う。

【高知県手すき和紙協同組合】大勝委員：

- ・情報の記載を嫌がる組合員もいるため、組合として取りまとめるのは難しいが、各職人の判断でデータシートを作成してもらうのは構わない。

【土佐和紙振興会わ紙。】井上委員：

- ・実際に注文依頼を受ける際、顧客との情報交換のため、紙のサンプル送付等で何度かやり取りを行うことが多い。データシートがあると、和紙の特徴や用途等の情報を事前に共有することができ、円滑に注文を受けやすくなるため、取り組んでいただくと非常にありがたい。

【産業振興センター】：前川委員

- ・提供先（一般消費者や卸売業者等）によって求める情報が変わってくるので、相手に合わせてデータシートの内容を変更していく必要があると思う。

②高知県手すき和紙協同組合のホームページ更新について

【中央会】：松井委員

- ・資料 16 ページにホームページ更新の記載があるが、どのような状況であるのか？
中央会として、自己負担として 1/2 は発生するが、ホームページの更新費用等について助成する組合向けの制度を設けているので、ぜひ検討していただければと思う。

【高知県手すき和紙協同組合】大勝委員：

- ・組合が取り扱う和紙の一覧等を掲載する等を行うことで分かりやすくなると思う。しかし、写真だけでは和紙の質感や手触り、機能性等が伝わりにくいため、掲載をしていなかったところである。更新についても検討しておく。

【事務局】

- ・ホームページは単に情報を掲載するだけでなく、新たな顧客との接点を生み、問い合わせや取引につなげる役割がある。更新日時が古いホームページでは、閲覧者から「現在も活動しているのか」「問い合わせ先が有効なのか」と不安を持たれる可能性があるため、掲載内容だけでなく、継続的に更新されていることを示すことも重要であると思う。

議題②今後の取り組みに向けての協議

(1) 土佐楮確保に向けた取り組みについて

事務局より、資料「令和8年度第1回土佐和紙総合戦略推進会議 本会議資料」を用いて説明。

-----以下、協議内容-----

【工業振興課】津口委員長：

- ・土佐楮の今後の方向性としては、集落単位で副業的に栽培してもらうか、手漉き和紙職人自らが栽培するかの2パターンになっていくことが想定される。後者について、職人さんの意見をお伺いしたい。

【土佐和紙振興会わ紙。】：井上委員

- ・一部の和紙職人が自ら使用する分の楮を確保するために栽培を行っているが、それを外部へ売り出していく考えはあまりないことを伺っている。それよりも、作業（刈り取りや蒸し剥ぎ等）に対しての人材確保の方が問題だという意見が出ているため、何か支援策があればご協力いただきたい。

【工業振興課】津口委員長：

- ・「いこうち」については、どのような状況となっているか？

【中山間地域対策課】西岡課長補佐（後藤委員代理）：

- ・「いこうち」について、昨年度までは集落活動センターのみを対象としていたが、今年度からは、集落活動センター以外の団体についても活用いただけるように拡充した。個人での活用は想定していないが、例えば、土佐和紙振興会などの団体に活用いただくことは可能なので、ぜひ検討していただきたい。

【紙産業技術センター】：田村委員

- ・和紙職人自らが栽培する点について、イノシシによる獣害や夏場の高温など、楮の栽培には管理に多くの手間が必要なため、和紙職人が紙漉きと並行して継続的に栽培を行うことは大きな負担がかかると思う。
- ・今後、県内で和紙産業を継続していくためには、楮栽培の生産者、紙漉きを行う職人、製品を販売する事業者など、それぞれが役割分担できる仕組みづくりが重要ではないかと考える。

【工業振興課】津口委員長：

- ・土佐楮の買取価格が、他産地の国産楮と比べて低いという話を聞いたことがあるが、実際はどのような感じなのか？

【紙産業技術センター】：田村委員

- ・土佐楮については、全国に比べて安価である。また、県外からの大量発注によって、県内に出回る土佐楮の在庫がないといったケースが発生している。

(2) ユネスコ無形文化遺産登録の方向性について

事務局より、資料「令和8年度第1回土佐和紙総合戦略推進会議 本会議資料」を用いて説明。

-----以下、協議内容-----

【歴史文化財課】：山崎委員

- ・ユネスコ無形文化遺産登録を目指すためには、まず「土佐和紙」の明確な定義付けを行い、その歴史的・文化的価値を整理した上で、保存・継承を担う体制づくりが重要である。また、単に伝統技術が残っているだけでは登録は難しく、その技術が持つ文化的価値を客観的に説明できることが必要となってくる。今後は、県の考えだけで進めるのではなく、生産者や職人など技術を担う関係者の意見を十分に踏まえながら、方向性を考えていきたい。

【高知県手すき和紙協同組合】大勝委員：

- ・過去にユネスコ登録を目指したこともあったが、結果として、土佐和紙保存会を設立するのみとなってしまった。

【土佐和紙振興会わ紙。】：井上委員

- ・ユネスコ登録による効果として、国内外での認知度向上やブランド価値の向上、産地を訪れる人の増加が挙げられる。一方、登録産地を見ると、ユネスコ登録維持のために漉くことが目的となっていることを感じた。そのため、登録を目指す際は、登録後の動向にも注意すべきであると思う。

【小津和紙】：木村委員

- ・ユネスコ登録によって、商品の取り扱いに特段の差はない。登録されていること自体、必ずしも商品の購入理由になるわけではなく、消費者が商品を選ぶ際には、商品の魅力や使用目的との適合性等が重視されていると考える。

【工業振興課】津口委員長：

- ・ユネスコ登録によって販売力が強化されるのではなく、文化的価値を向上させる側面が強いことが伺える。そこに価値を見出せるかが鍵になると思う。

-----協議終了-----

最後に、津口委員長より、参加者を精査した上で9月末頃にプロジェクトチーム会を開催する旨を委員へ報告。以上を持って、令和8年度第1回土佐和紙総合戦略推進会議本会議を閉会した。